

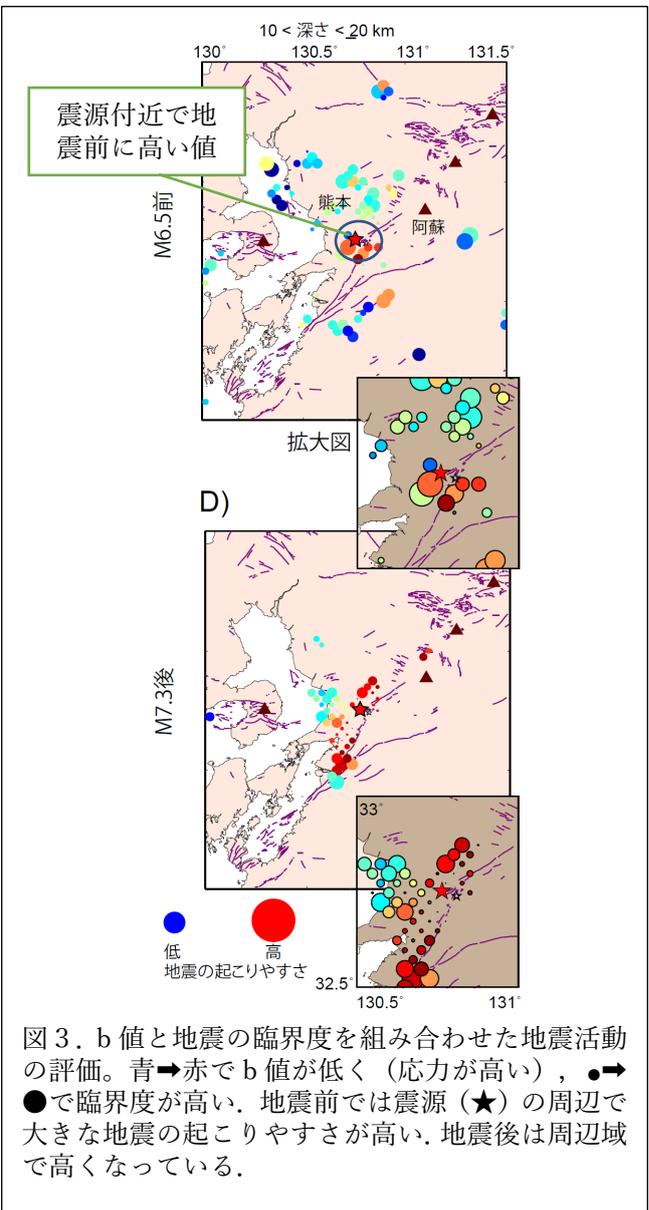
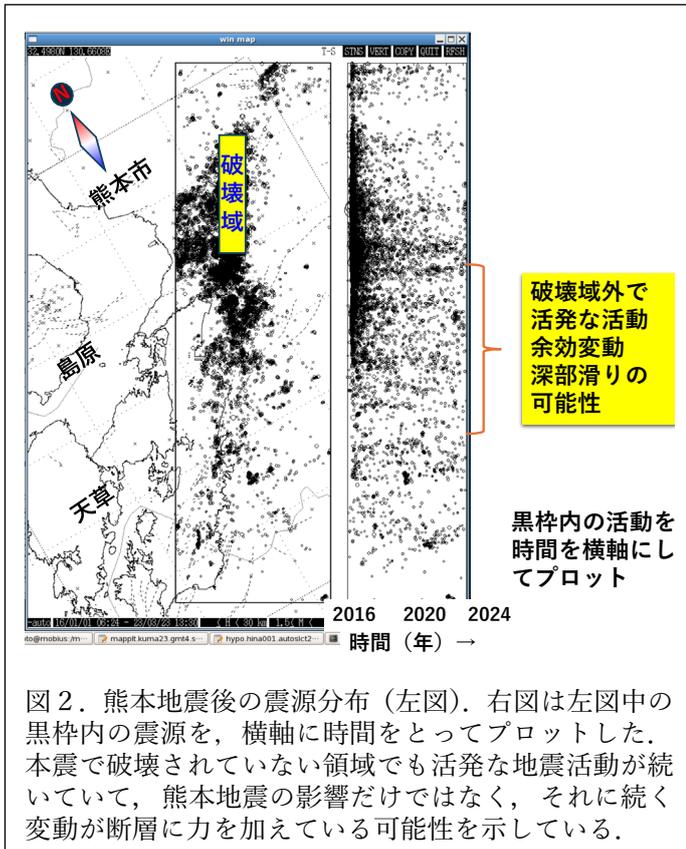
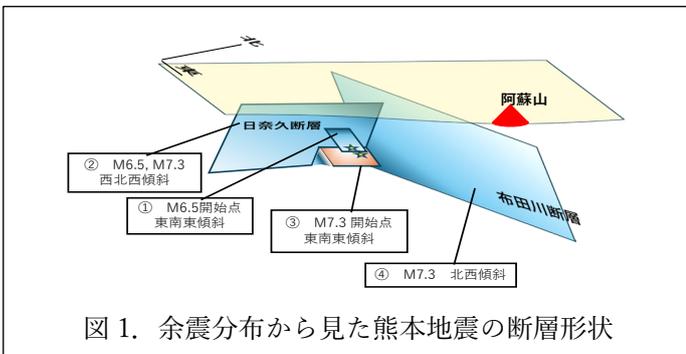
2016年熊本地震の背景と現在までの地震活動から見えること

九州大学大学院理学研究院地震火山観測研究センター

松本 聡

ポイント：

- 熊本地震は複雑な力場で起こった。
 - 断層は複雑な形状で分岐をしていた。
- 本震の複雑なすべりは、複雑な力場によって起こった。
 - 断層面が決められれば、より高精度の強震動予測の可能性がある。
- b値と臨界度を併用すると地震発生ポテンシャルをより詳しくモニターできる可能性。
- 日奈久断層南部では余震活動が活発であり、一つの可能性としては断層に力がかかり続けていると考えることができる。
 - いつ・どのくらいの地震が起こるかは予測できないが、注意が必要。
- 熊本地域は比較的良好に調査されてきた。結果を見てわかる通り、稠密な観測、調査が大変重要で、これからも観測・調査を継続して変化の検出に取り組む必要がある。



九州大学 松本聡 資料